

令和元年度 久留米市文化芸術振興審議会 第3回会議 議事録

1 開催日時

令和元年 10 月 30 日（水） 13 時 30～15 時 00 分

2 会場

久留米市役所本庁舎 3 階 308 会議室

3 出席委員（順不同） ※9名

木藤委員（会長）、木村委員（副会長）、井原委員、片山委員、大倉委員、中西委員、福田委員、前原委員、矢次委員

4 欠席委員 ※2名

上田委員、古賀委員

5 事務局 ※11名

市民文化部 竹村文化芸術担当部長、西村次長

文化振興課 土居課長、小野課長補佐、新郷主査、中園主任主事

文化財保護課 水島課長

久留米シティプラザ 大宝課長補佐

公益財団法人久留米文化振興会 井上事務局長、隈課長補佐

久留米市美術館 眞子主幹

6 議事次第

1 開会

2 協議事項

（1）現基本計画の総括について

（2）次期基本計画の骨子について

（3）次期基本計画の原案について

3 その他

4 閉会

議事録

1 開会

- 事務局より、過半数の委員が出席しており、会議が成立していることを報告。
濱田委員を紹介。(今回初出席のため。)

2 協議事項

(1) 「現基本計画の総括」について

(2) 「次期基本計画の骨子」について

- 事務局より、資料1及び2に基づき、第2回審議会の意見の反映状況等について説明。

質疑 ※特に無し

(3) 次期基本計画の原案について

- 事務局より資料3及び4に基づき、次期基本計画の原案について説明。

質疑

○ 片山委員

- ・ たいへん腑に落ちる、説得力のある原案になっていると思う。総括目標はいわゆる KGI (Key Goal Indicator) に当たると思うが、各事業ベースでの KPI (Key Performance Indicator) は設定するのか。

● 事務局

- ・ 本計画では3つの指標となっているが、現在、本計画と併せて、市全体の総合計画の策定が進んでいる。その中では、政策評価制度が導入されていて、文化芸術の分野で特徴的な事業について、活動指標を設定しなければならないことになっている。例えば芸術家派遣事業であれば、派遣した学校数とか、美術館事業であれば、入館者数であるとか。本計画の進捗管理については、そのような総合計画での政策評価制度とも連携しながら、実施していきたい。

○ 濱田委員

- ・ 久留米シティプラザという素晴らしい施設ができた。学校等へ芸術家を派遣して、子どもたちが本物の文化芸術に触れることも大事だが、逆に、子どもたちがシティプラザに足を運ぶような取り組みも必要ではないか。行き返りの安全確保は課題かもしれないが。

● 事務局

- ・ 美術館については、市内の中学生1年生については、市がバスを準備して、美術館の展覧会を見てもらうような事業は実施している。そのような視点での検討も行っていきたい。

○ 大倉委員

- ・ 理念について。言葉はこれでよいと思うが、久留米市の近隣には、人口160万人の福岡市がある。市内外から広く久留米市に訪れていただく施策も大事だが、まずは、福岡市から久留米市に来てもらうようなアプローチが大事ではないか。「訪れたくなるまち」とか「芸術があふれるまち」とか、そういう発想が必要ではないか。

- 井原委員
 - ・ 資料3に「ポイント」が掲載されていることで、たいへん読みやすくなっている。よくまとめられていると思う。
 - ・ 理念については、「心ときめく」のような、ワクワクした感じが必要ではないか。
- 前原委員
 - ・ いっそ、大きな言葉を先に出してしまって、それに向かって取り組みを進めていくという考え方もある。例えば「芸術の都・パリ」のように、理念を「芸術の都・久留米」にするとか。
- 木藤会長
 - ・ 理念はなかなか変えにくいので、例えば、サブタイトルのようなかたちで表紙に明示する方法もある。事務局で検討をお願いします。
- 片山委員
 - ・ 3つ目の柱のうち、③各文化施設間の連携の推進についてだが、「文化施設間の連携の推進」については、書き方があまりに短い。もう少し具体性のある書きぶりにしたほうがよいのではないか。
- 矢次委員
 - ・ 久留米市の文化芸術資源の「産業文化」について。井上傳や田中久重もわかるが、ゴム産業は、やはり現代につながる大事な文化資源だと思う。記載を厚くするとか、表紙の写真にJR久留米駅前の巨大タイヤのオブジェを使うとか、そういう工夫をお願いしたい。
- 事務局
 - ・ 表紙の写真で工夫するなど、検討したい。

3 その他

- 第2回会議の議事録、会議資料の公表についての確認
- 次回の審議会開催に係る日程調整について連絡

4 閉会

- 木藤会長
 - ・ 閉会の挨拶

以上